

個別機能の検討事項・検討課題 について(その2)

2020年11月6日

第4回町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会



川崎市立はるひ野小学校・中学校



横須賀市立大塚台小学校



山武市立松尾小学校

柏市新設小学校

個別機能の検討その2

- 普通教室
- 多目的スペース
 - ①オープンスペース（小学校のみ）
 - ②多目的ホール
 - ③多目的室

普通教室及び多目的スペース

- 町田市内2000年以降の学校について
(プラン構成、見学の際の意見)
- オープンスペースの要否等の検討
- 多目的ホールの必要数の検討
- 普通教室及び多目的スペースの広さ
- 普通教室、多目的スペースの配置

町田市内2000年以降の学校(小学校)

- 小山ヶ丘小学校(2004年)
- 図師小学校(2008年)
- 小山中央小学校(2009年)
- 鶴川第一小学校(2015年)

小山ヶ丘小学校(2004年)

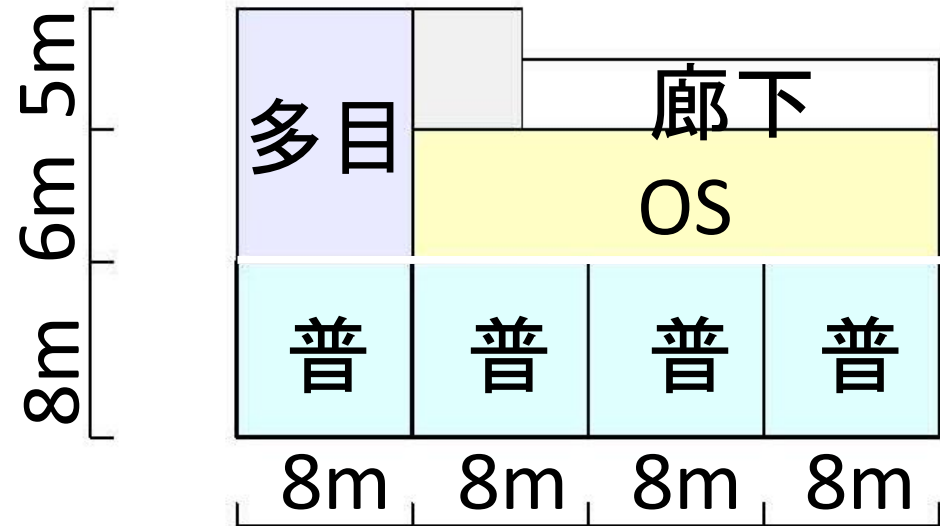
【ヒアリングでの意見】

○メリット

- すぐに集まれるため学年運営がしやすい。
- OSから教室内に目が行き届きやすい

○デメリット

- プロジェクターを黒板の半分に置いているので、板面が限られてしまう。
- 掲示スペースが圧倒的に少ない。
- 隣の教室の音が聞こえやすい



扉形状:なし(オープン型)

図師小学校(2008年)

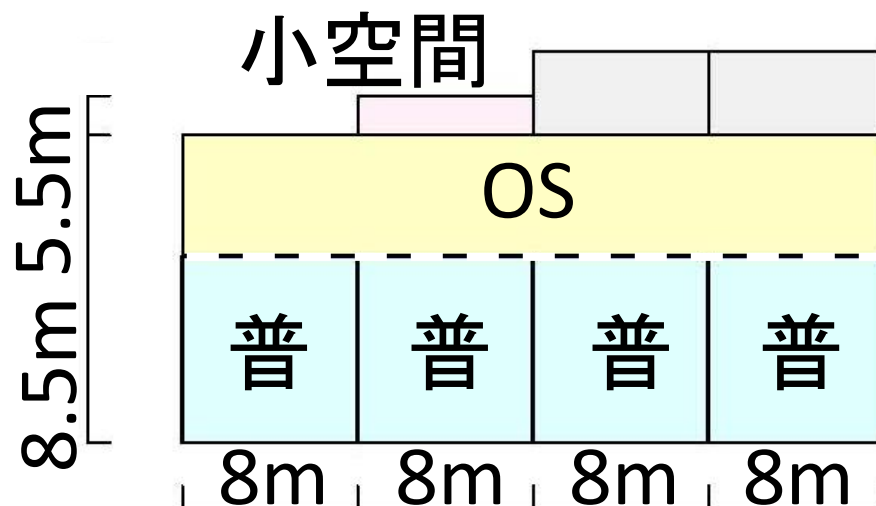
【ヒアリングでの意見】

○メリット

- テストの際に机を出して間隔を取って机を配置することができる。
- すぐに集まれるので学年単位の指導がしやすい。

○デメリット

- 移動扉が動かしにくいため、感染症対策を取る前は扉を閉じて使用していた。



扉形状: 移動扉

小山中央小学校(2009年)

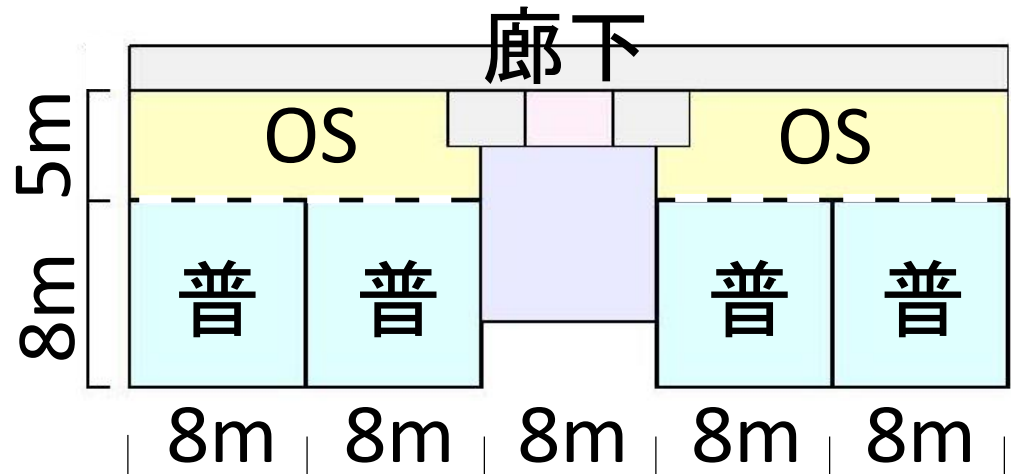
【ヒアリングでの意見】

○メリット

- 普段の授業の展開を変えやすい。
- (他のOSの形態も経験があるが)引戸型が使いやすい。

○デメリット

- 引戸の収納場所がないため、引戸が邪魔になることがある。



扉形状：引き戸

鶴川第一小学校(2015年)

【ヒアリングでの意見】

○メリット

- OSはないが、多目的教室を上手く活用できており、本校には適している。

○デメリット

- 教室の授業を行う空間はこのままでもよいが、収納スペース分の広さを別に確保したい。
- 憩いのスペースが足りていない。

廊下

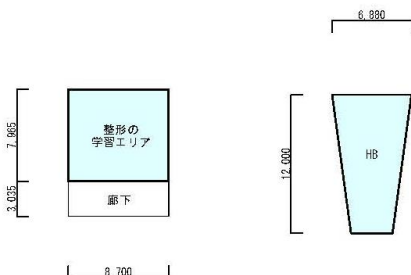
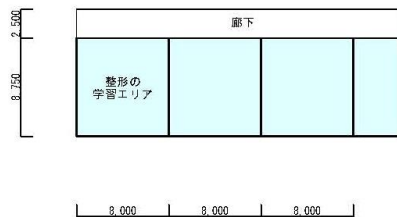


扉形状:引き違い ※OSなし

町田市内2000年以降の学校(中学校)

- 鶴川中学校(2001年)
- 小山中学校(2004年)
- 町田第一中学校(2021年完成予定)

町田市内2000年以降の学校(中学校)

鶴川中学校 : HR教室・HB(2001年)	約70㎡	小山中学校(2004年)	約72㎡	第一中学校(2021年予定)	約70㎡
 (HR教室) (HB)					
 (HR教室)  (HB)					

まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査・意見募集報告：自由記述抜粋①

【普通教室について：要望】

- ・机や椅子の移動のしやすさ、軽くて可動しやすいものが多い。
- ・少人数にICT環境が整っていない、普通と同じ機能を備えて作るべき。
- ・複数の側面にホワイトボードを置く。

まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査・意見募集報告:自由記述抜粋②

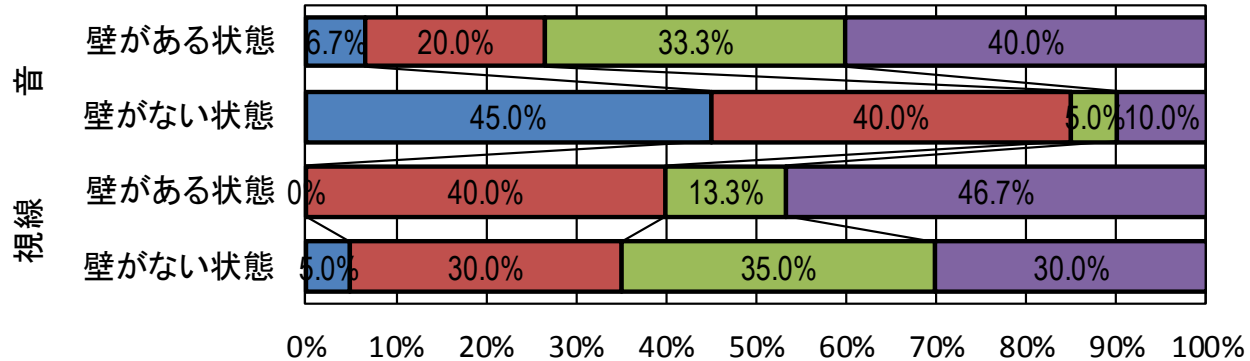
【オープンスペースについて】

- 教室前のOSは多様な活動ができる
- 教室だけではできない作業や調べ学習ができない
ときのスペースの確保
- 予約なしで、常時活用できるスペースとして確保
- 教室の横なので、学習の活動場所としてすぐに活用
できる

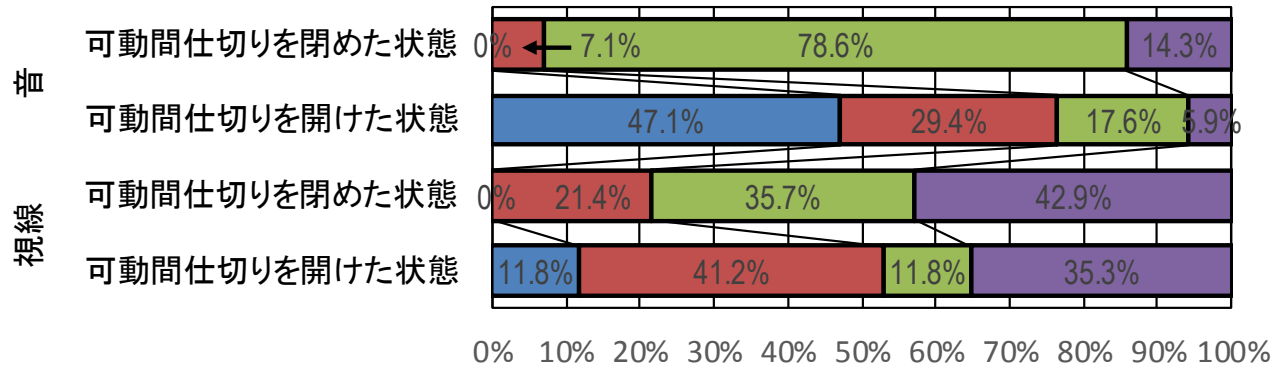
町田市立(2000年度以降建築・改築校)現地調査

①教室とOSの境界の状態に対する教員の評価

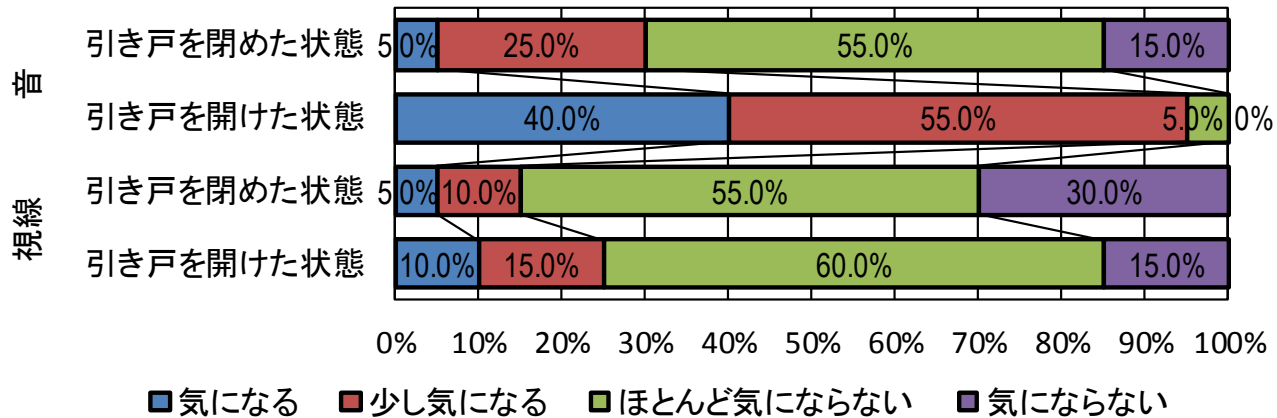
小山ヶ丘小



図師小



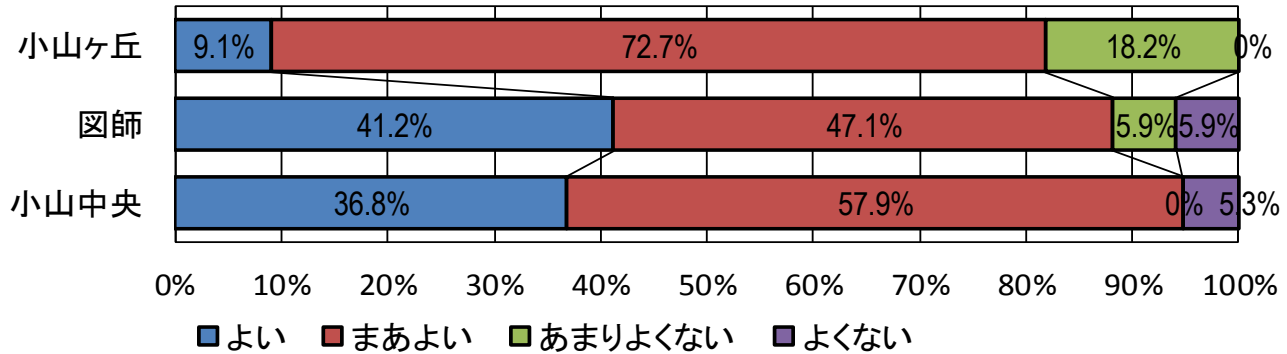
小山中央小



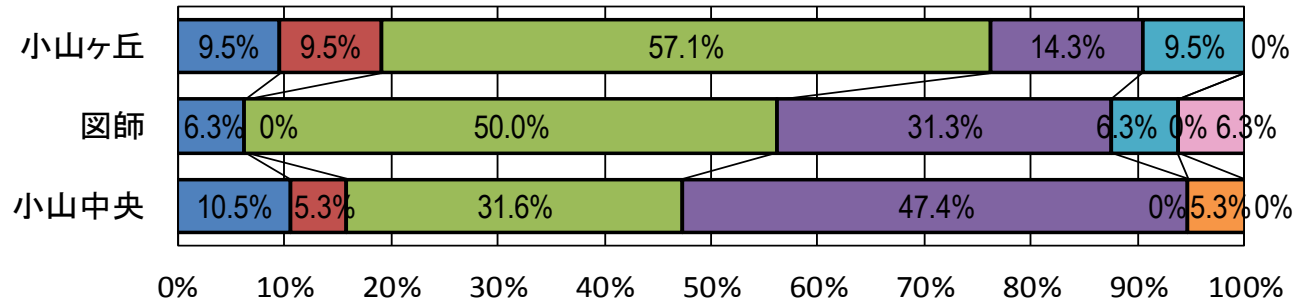
町田市立(2000年度以降建築・改築校)現地調査

②教室に隣接するOSに対する教員の評価

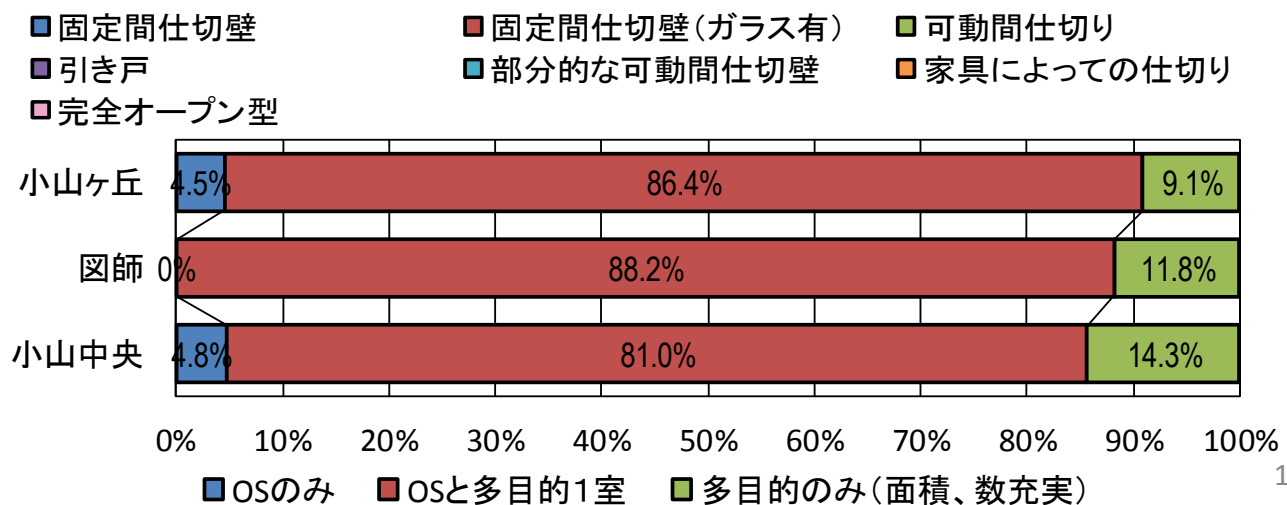
OSがあることの
総合評価



新たに校舎を建設する場合、OSと教室の境界の
つくり



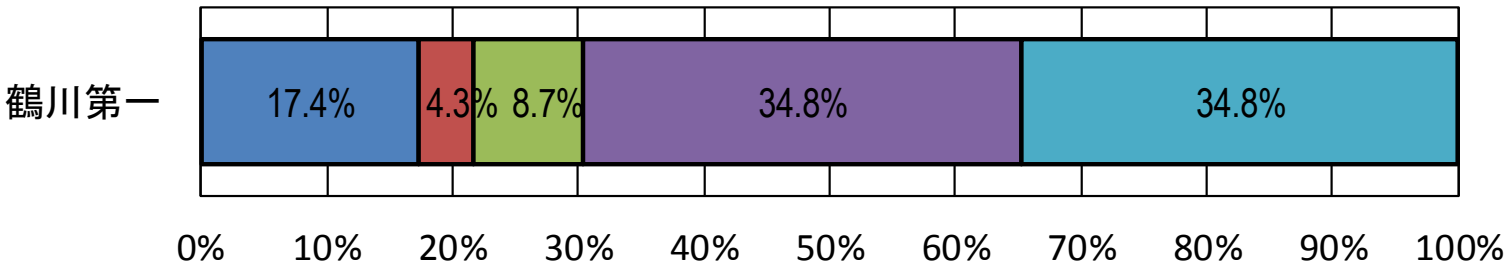
教室に隣接するOSと独立した多目的室の整備



町田市立(2000年度以降建築・改築校)現地調査

③教室に隣接するOSに対する教員の評価

多目的室とOSを比較した要望

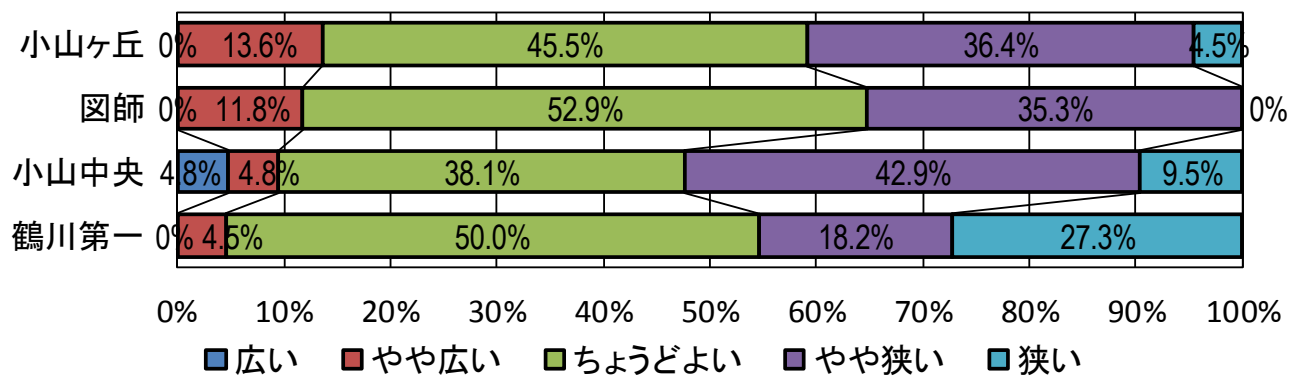


- 現在の多目的室に加えて、教室に隣接しているOSを設置してほしい
- 多目的室を1室に減らしても、教室に隣接しているOSを設置してほしい
- 多目的室はなくてもよいが、十分な広さの教室に隣接しているOSを設置してほしい
- 教室に隣接しているOSはなくてもよいが、多目的室の面積、数を増やしてほしい
- 現状(多目的室2室、OSなし)でよい

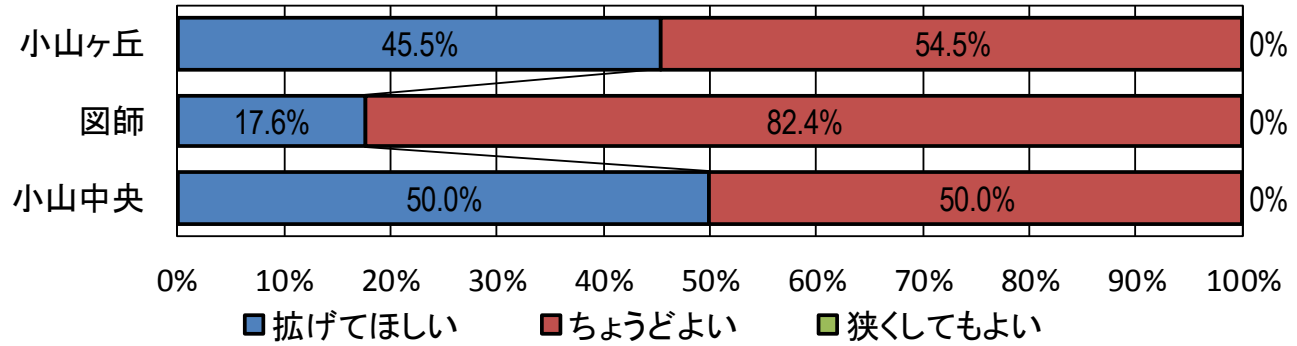
町田市立(2000年度以降建築・改築校)現地調査

④教室の広さに対する教員の評価

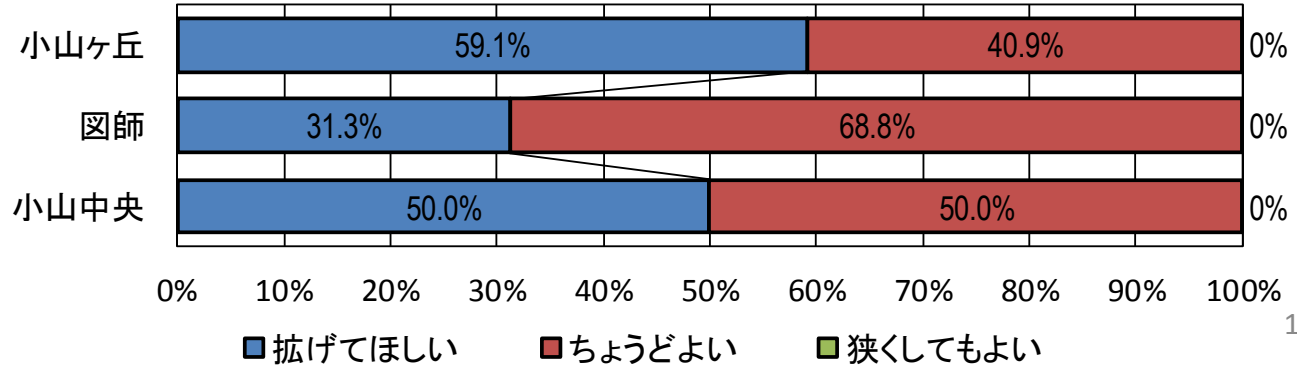
面積



幅
(窓から教室とOS
の境界まで)



奥行き
(前面黒板面から
後方壁面まで)



プロセス4:オープンスペースの要否等の検討

【検討課題】

①オープンスペースの要否 ※小学校のみ

- ・オープンスペース整備の要否を検討。
- ・整備が必要とした場合において、必置の要否を検討。

②普通教室とオープンスペースの間仕切りの検討

※①でオープンスペースの整備が必要とした場合のみ

- ・オープン型
- ・可動式間仕切り(移動扉型)
- ・可動式間仕切り(引戸型)
- ・その他

オープンスペース

【計画事例】

一斉授業以外に、チームティーチングによる学習、個別学習、グループ学習などに活用できる多目的な空間を整備



普通教室とオープンスペースの間仕切り

【計画事例】

扉形状：移動式間仕切り型



扉形状：引き戸型



プロセス5：多目的ホールの必要数の検討

【基本方針】

(1) 小学校

- ① オープンスペースを整備する場合の必要数
- ② オープンスペースを整備しない場合の必要数

(2) 中学校 必要数

プロセス6: 普通教室及び多目的スペースの広さ

【検討課題】

1. 普通教室の広さ

1-1. 学習スペースの確保

1-2. 収納スペースの確保

1-3. 教員の執務・収納スペースの確保

2. オープンスペースの広さ

3. 小空間の要否

4. 多目的ホールの広さ

はじめに

主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・ 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び

深い学び

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通じて集団としての考えを形成したりしていく
- ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成



はじめに

主体的・対話的で深い学びに対応



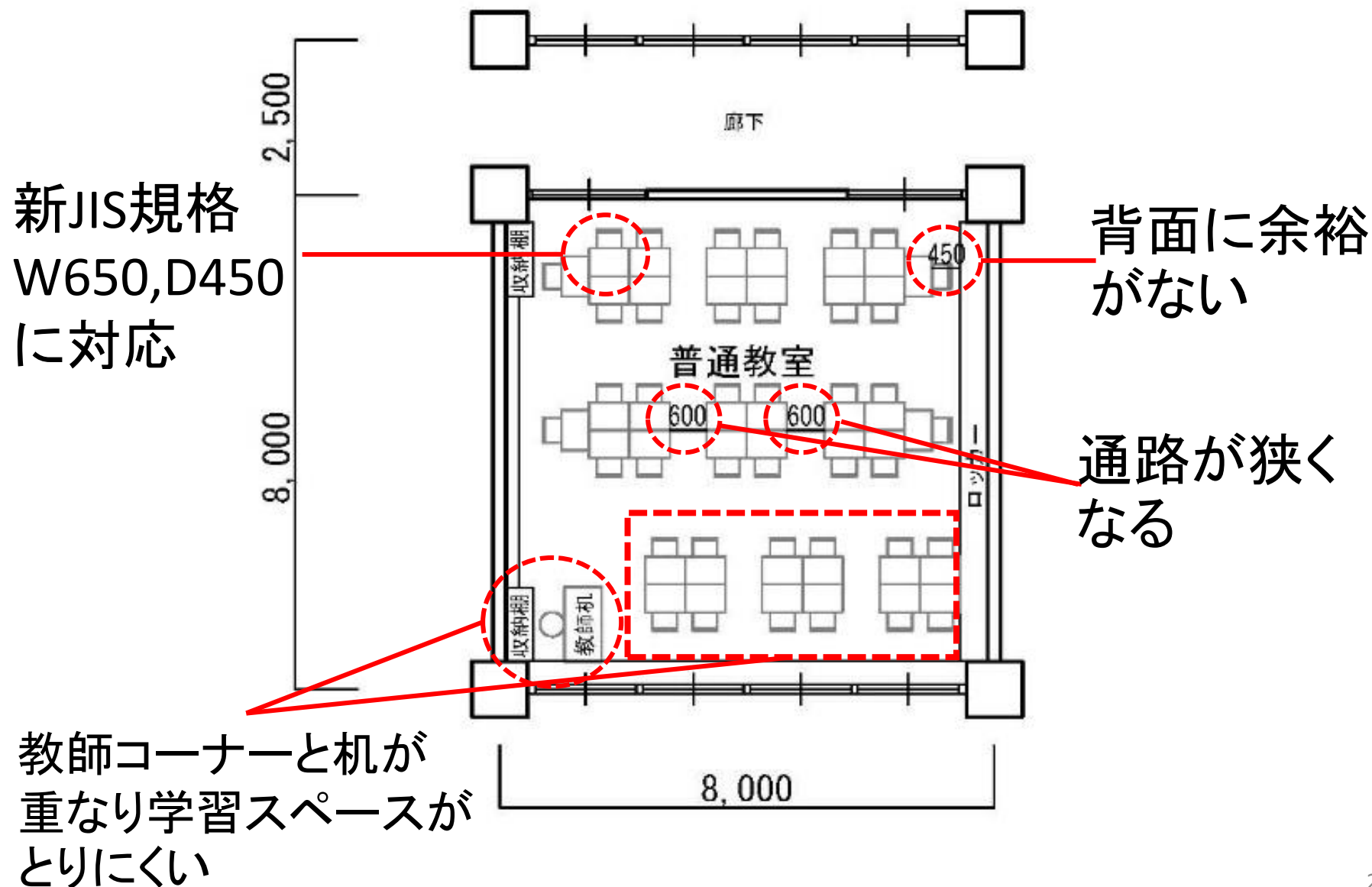
①学びの手法の変化に対応する



②教室を頻繁に動きまわる学習に対応するには、机にかかっている荷物が邪魔になってしまうので、収納スペースに工夫が必要

1-1. 学習スペースの確保(既存普通教室)

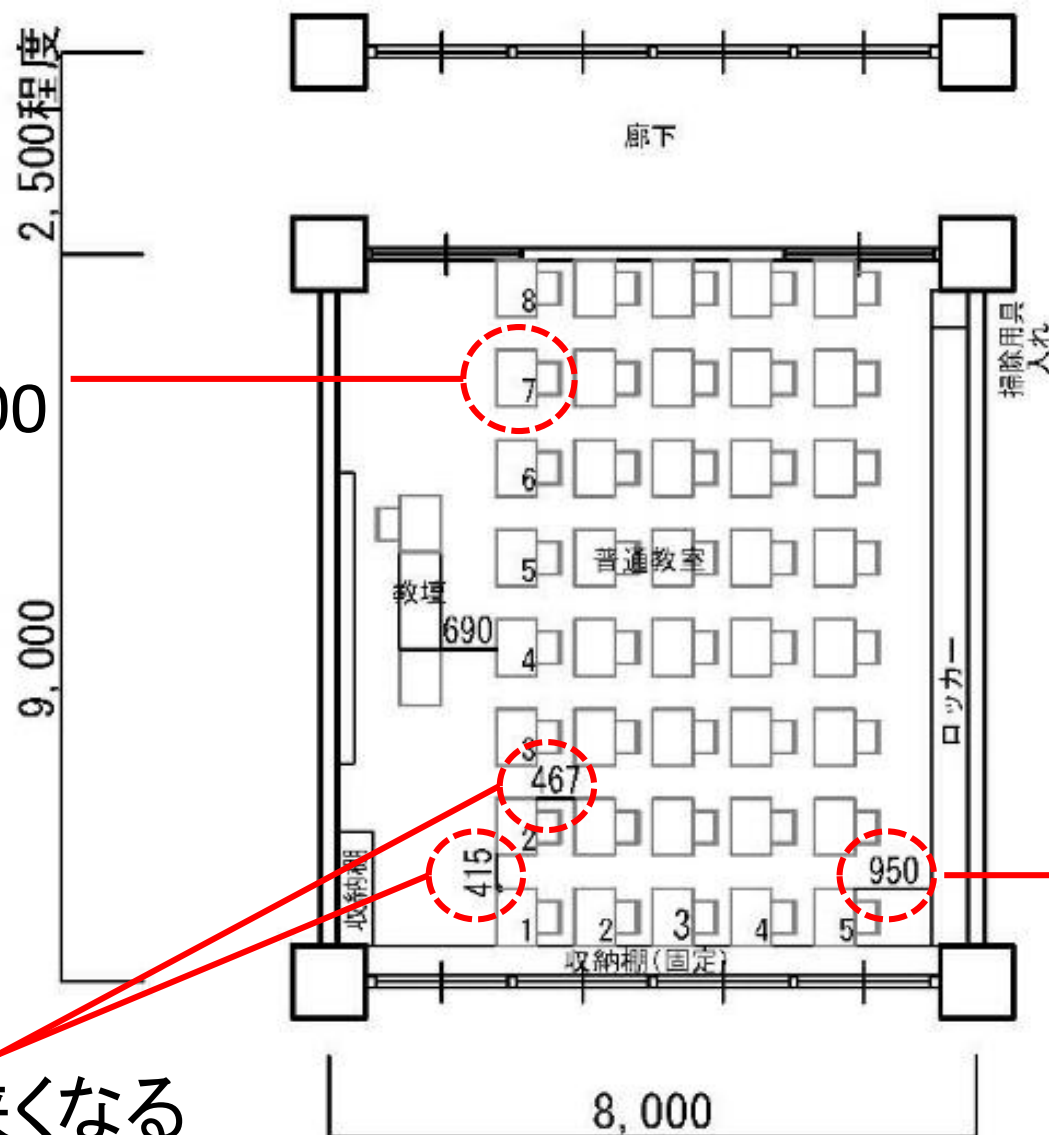
【検討例】既存小学校(8m × 8m)



1-1. 学習スペースの確保(既存普通教室)

【検討例】既存中学校(8m × 9m)

新JIS規格
W700,D500
に対応



通路が狭くなる

ロッカー前に
余裕がない

1－2. 収納スペースの確保

【検討課題】

(1) 小学校

- ①個人単位の収納スペースと収納量
- ②収納スペース配置のあり方

(2) 中学校

- ①個人単位の収納スペースと収納量
- ②収納スペースの配置のあり方

(3) 共通

普通教室を避難施設とした開放することを想定した収納スペースのあり方(家具を固定か可動にするのか)

1-2. 収納スペースの確保

【計画事例】小学校①

(主な収納例)

- ・ランドセル
- ・習字セット
- ・絵具セット
- ・鍵盤ハーモニカ
- ・算数セット
- ・裁縫セット
- ・体操着
- ・水筒
- ・粘土



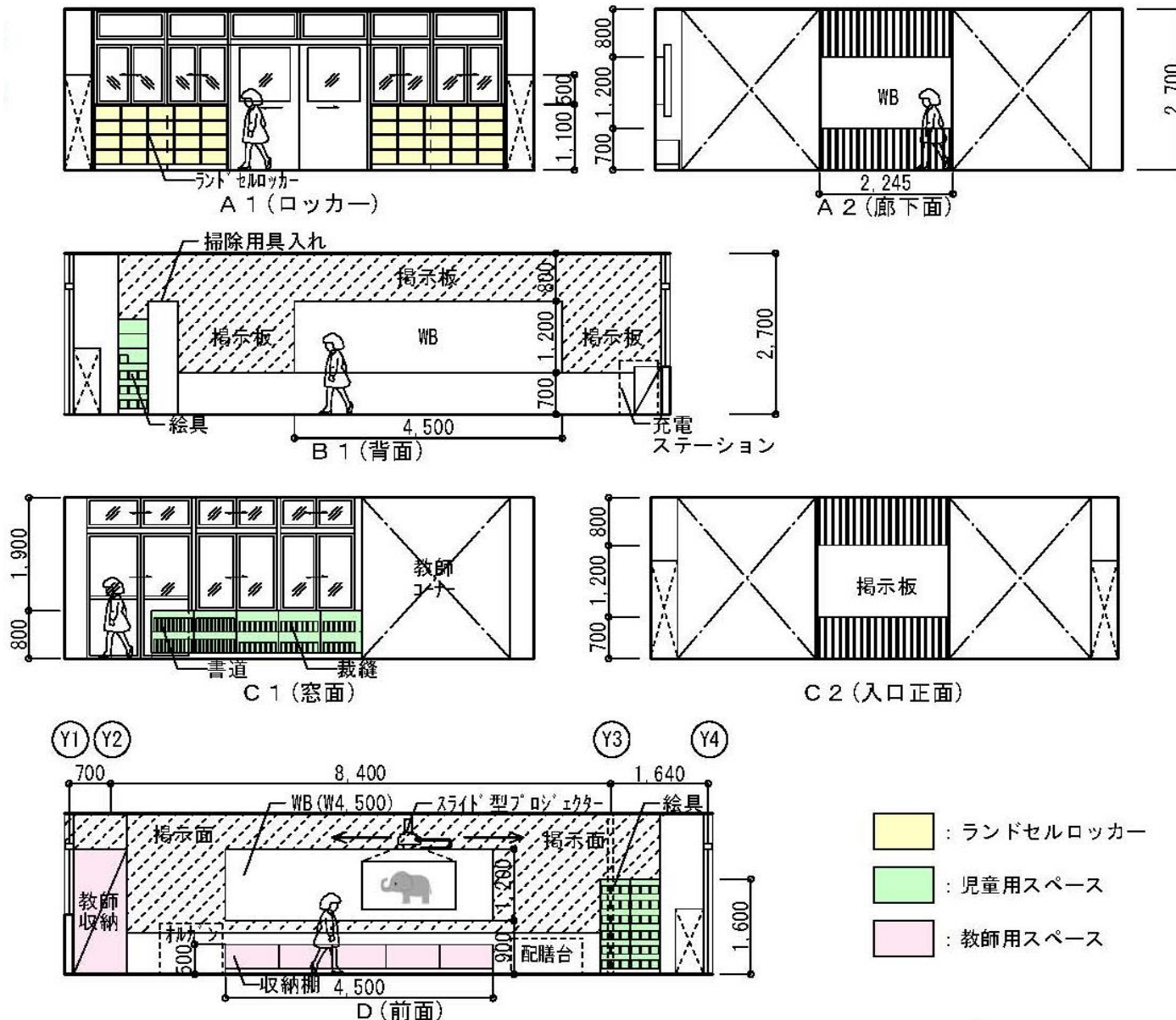
ロッカーの収納を検証



持ち物のサイズでロッカーの寸法を検証

1-2. 収納スペースの確保

【計画事例】小学校②



1-2. 収納スペースの確保

【検討例】既存中学校：個人の荷物の収納場所



(主な収納例)

・通学鞆

※生徒により
大きさが異なる

・教科書・資料

・部活動の荷物

背面にしか収納
スペースがない

机の横に荷物を
かけているので
危ない

1-2. 収納スペースの確保

【計画事例】

タブレット端末の収納→家具の一部に収納



参考：内田洋行カタログ

1－3. 教員の執務・収納スペースの確保

【検討課題】

- 執務スペースの固定・可動のあり方
- 収納スペースの必要量（ICT 化しても残るもの）

1－3. 教員の執務・収納スペースの確保

【計画事例】

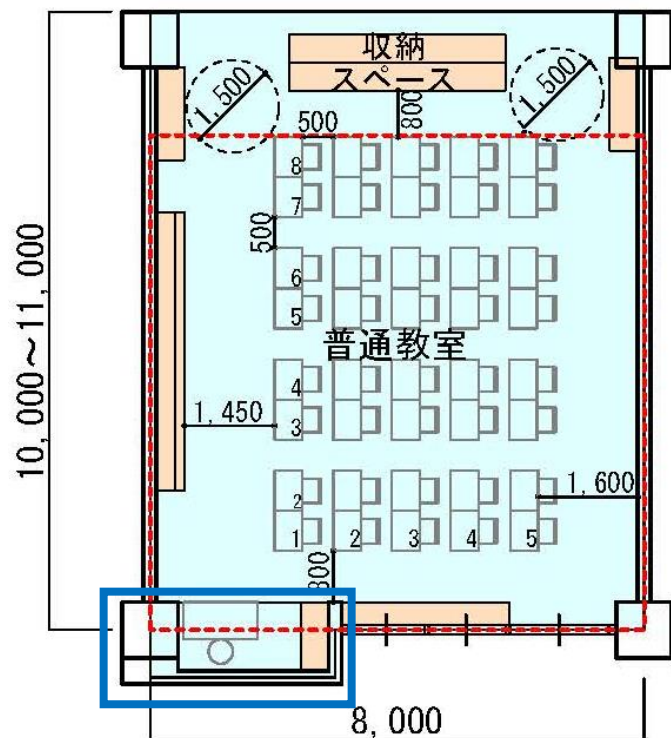
教師コーナーを児童の学習エリアの近くに隣接して計画



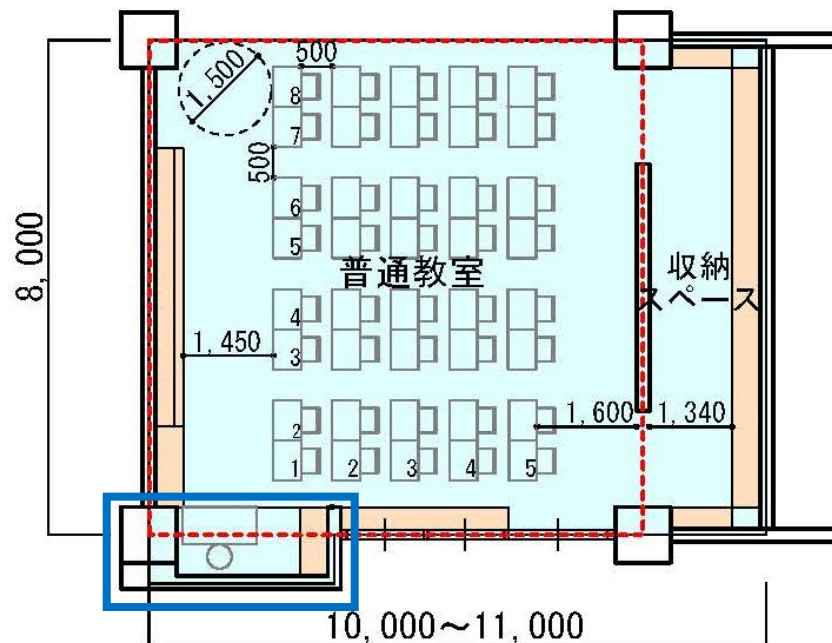
【検討課題】1. 普通教室の広さ

【検討例】多様な学習形態に対応：一斉授業

小学校①



小学校②



収納スペース

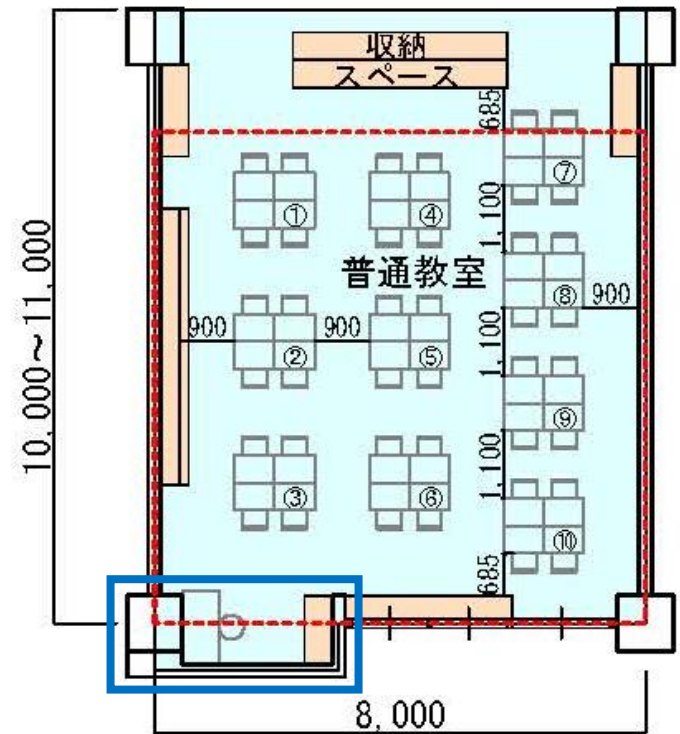
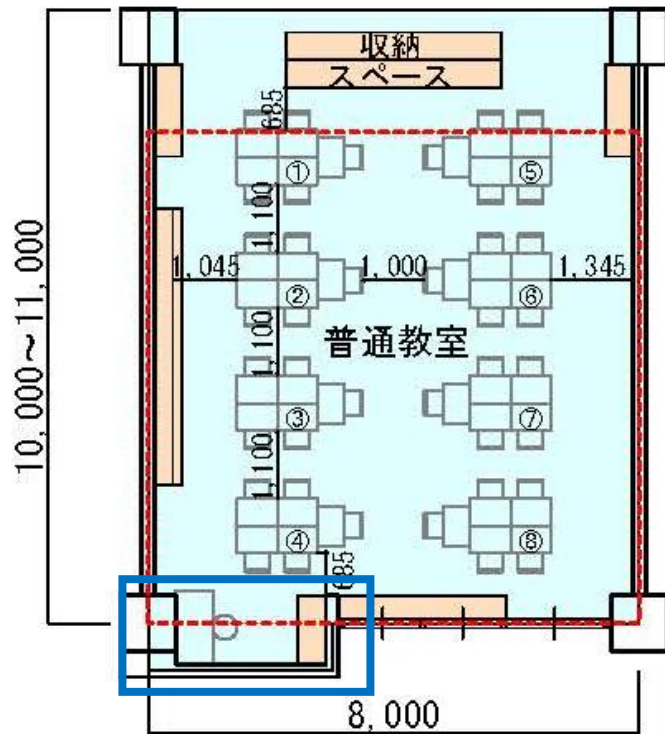
教員の執務・
収納スペース

従来の教室の大きさ
(8m × 8m)

1. 普通教室の広さ

【検討例】多様な学習形態に対応：グループ学習

小学校：4人×10グループ、5人×8グループ



収納スペース



教員の執務・
収納スペース

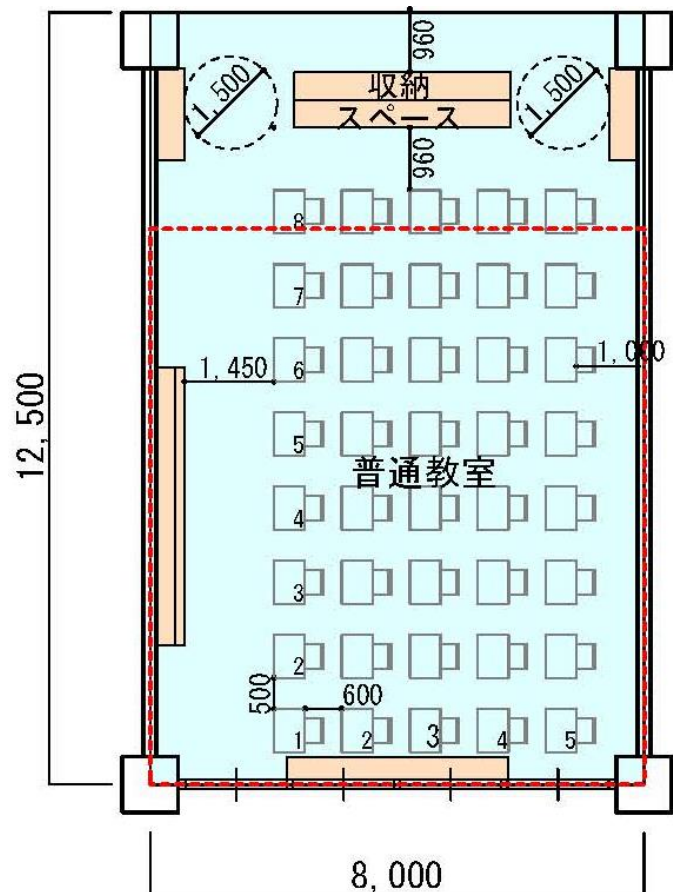


従来の教室の大きさ(8m×8m)

【検討課題】1. 普通教室の広さ

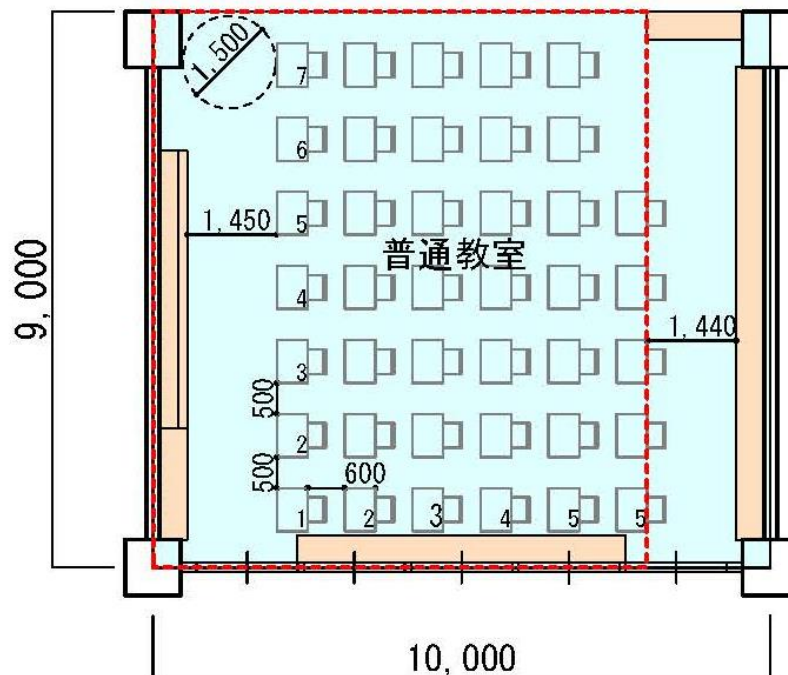
【検討例】多様な学習形態に対応：一斉授業

中学校①



収納スペース

中学校②

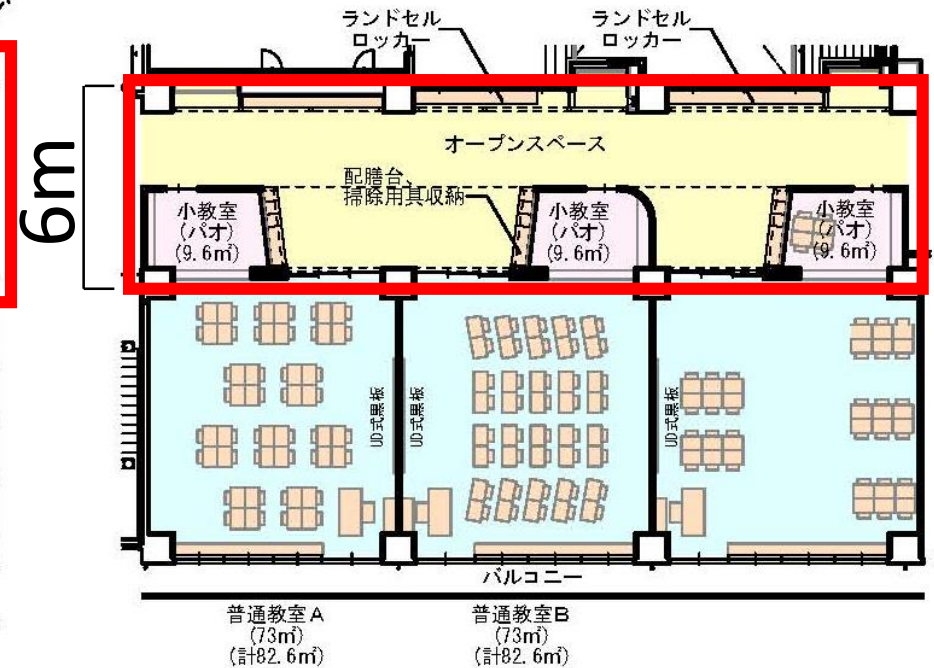
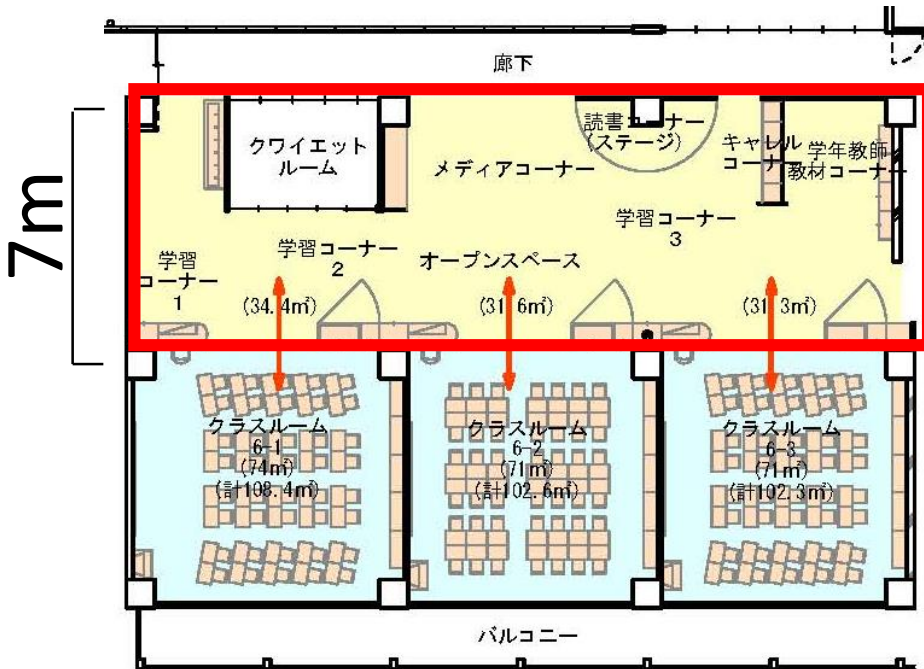


従来の教室の大きさ(8m × 9m)

【検討課題】2. オープンスペースの広さ

【計画事例】

普通教室に隣接して、幅6～7m程度を確保し、多様な学習形態に対応



川崎市立はるひ野小学校・中学校

立川市立若葉台小学校

【検討課題】3. 小空間の要否

【計画事例】

教室周りにデン等の小空間を整備し、児童がクールダウンができる場所を計画(小学校)

読書コーナー



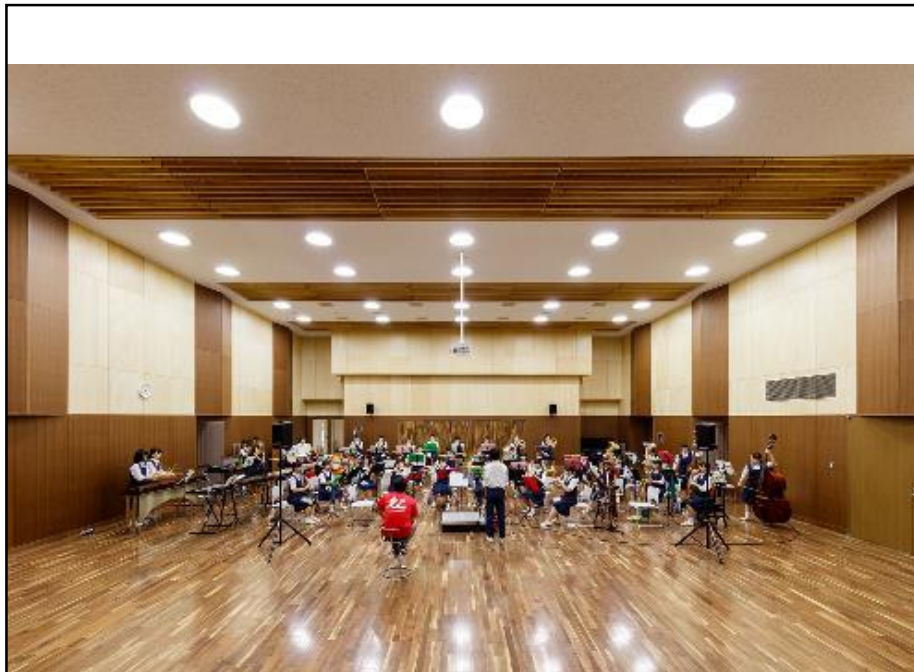
小上がりの空間(パオ)



【検討課題】4. 多目的ホールの広さ

【計画事例】

学年単位の集会等に使用、教室の広さ2～3教室程度の広さを確保。



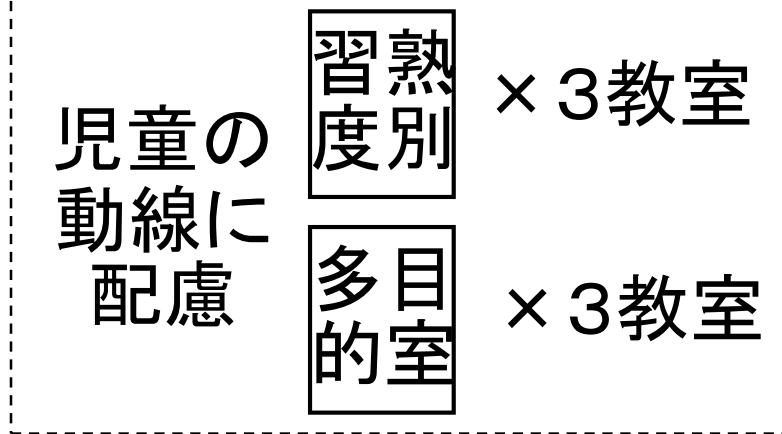
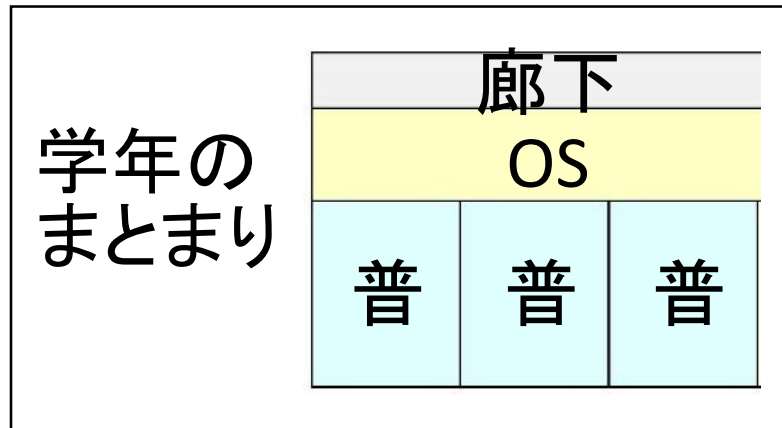
普通教室、多目的スペースの配置

【検討課題】

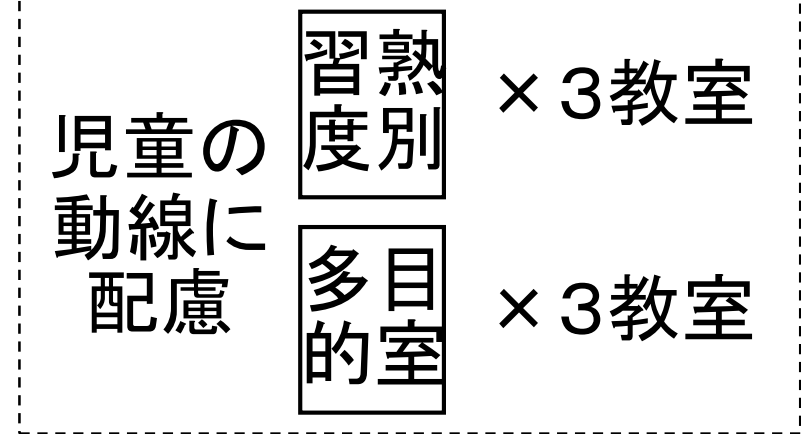
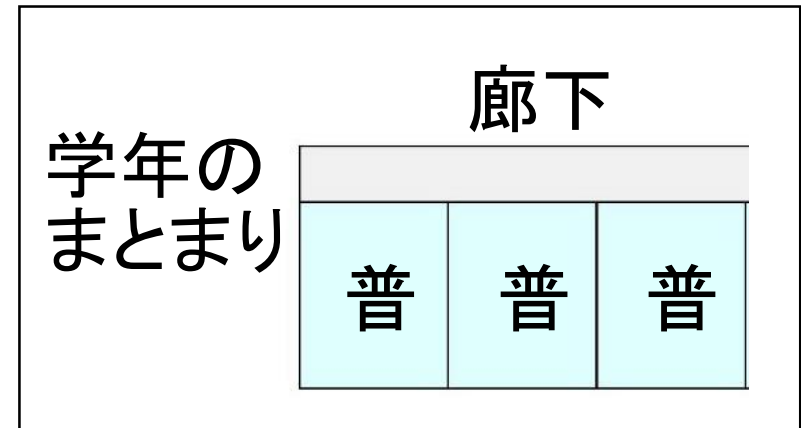
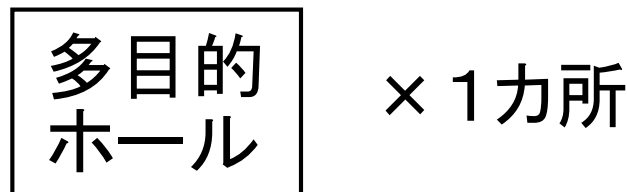
1. 普通教室の配置：学年単位のまとまりを中心に検討
2. 習熟度別学習等を行う教室の配置：
児童・生徒の動線を含めて配慮事項があるかどうか
3. 多目的室の配置：
普通教室への転用を想定した配置や他学年が利用することを想定した動線への配慮事項があるかどうか
4. 多目的ホールの配置：
学年単位の集会等に使用、児童・生徒の動線を含め、
配慮事項があるかどうか

普通教室、多目的スペースの配置

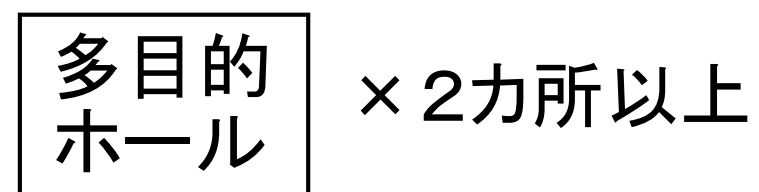
【検討例】小学校



+



+



普通教室、多目的スペースの配置

【検討例】中学校

